



## 不合格体験記

昨日、「進路のしおり」を配布した。ちょっとだけ中身を紹介したが、早稲田にしても慶応にしても、合格しても進学しない人が多いのだから、たいした学校に自分がいることが分かるだろう。火曜日の学年集会の時にU田先生がおっしゃっていたが、大学は確かに入りやすくなっているのである。普通に授業を受けて努力すれば、十分に自分の希望する進路が拓けるのだ。

その意味でも先輩方の「合格体験記」は参考になるはずだから、ぜひ目を通すこと。ただ、人間は失敗の方からより多くを学ぶものでもある。北九州予備校という予備校が、名前もズバリ「不合格体験記」というのもまとめていて面白い。一つだけ紹介してみよう。

\*

「同じ部活でも結果は大違い。

友は東大、私は浪人」(熊本高校卒業生)

第一志望の高校に合格し、浮かれ気分で高校に入学した。新しい友だちもでき、部活にも入った。しかし、新しい環境に慣れていくにつれて、気持ちもたるみ始め、予習はある程度やっていたが、復習や週末課題を怠り、テストの成績も下がっていった。しかしなぜか私はそのことに気もとめないで、「なんとかなるだろう」と、根拠もなく楽観的な気持ちでいた。そしてそのまま時は過ぎていき、3年生になった。部活が終わり、体育祭、文化祭も終わり、そこから自分なりに必死にやったが、最後まで苦手科目を克服できず、受験する状態ではないまま受験を終えた。

やはり反省点は、コツコツ勉強することを怠ったことだと思う。部活は土日長い時間あったが、同じ部活の人が東大に受かったり、

阪大や九大にも受かっている。やっぱりその人たちは1年の頃からコツコツやっていた。

そして、苦手科目を克服できなかったことも、コツコツ基礎からやっていたから。特に数学は、わからない→解かない→解けないという悪循環にはまってしまった。

精神面では、気持ちの切り替えが上手くなかったことも反省すべき点だ。ちょっとしたことでも1日中クヨクヨして勉強が手につかなかったり、勉強中も集中力に欠けるころがあった。集中しないことで予習にも時間がかかり、夜更かしをして結局授業中眠くなるのがよくあった。

これらの反省点を生かして、まず毎日の予習・復習のリズムを守ること、そして苦手科目をなくすこと。あとは、毎日充分な睡眠をとって授業を大切にすること。細かいことは気にせず、とりあえず勉強すること。これらのことを頭に入れて、悔いのない浪人生活を送ろうと思う。

\*

予備校の発行するパンフレットなので、最後は「悔いのない浪人生活を送ろう」となるわけだが、そうならないためにも、ここに書いてある「不合格体験談」をぜひ参考にして、今の自分を振り返ってほしい。入学して3ヶ月、自分の姿と重なってくる部分もたくさんあるに違いない。苦手科目の克服の重要さ、「わからない→解かない→解けない」という悪循環、そして、集中しないが故の無駄な時間…。どれも身に覚えがあるのではないだろうか。ならば、その改善を目指すべきである。今なら十分に間に合うのだから。